

GUTEN TAG

発行 仙台日独協会 企画・編集 仙台日独協会文化センター

仙台市青葉区大町2-3-10 目黒ビル3F TEL・FAX 022-262-7430 仙台日独協会 HP <http://www.doitsugo.jp/sendai.html>



エルプフィルハーモニー ハンブルク

ご挨拶

新しい駐日ドイツ大使として皆様にご紹介できますことを嬉しく思います。9月初めの東京着任以前、私はベルリンで外務省アジア・太平洋局長を務めており、数多くの日本人の担当者となり取りする機会がありました。しかし、自身で日本に長く住むことは、やはり何かまったく別のことです。私はそれを楽しみ、毎日何か新しい発見をしております。10月には着任早々、ある重要なビッグイベントに参加することができました。シュタインマイアー連邦大統領ご夫妻と一緒に、天皇帝下の即位儀礼に私も列席することができました。引き続きおこなわれた政治分野や社会関連の対話によって、ドイツと日本が大変良好な協力関係にある事を確認しました。なんといっても、ドイツと日本は現代の重要問題における親密なパートナーなのです。私たちは共に多国間主義を代表し、紛争の政治的解決や文明的な危機管理のために共同で尽力しております。さらに、私たちはフェアで自由な世界貿易を象徴する存在であり、開発共同事業や国際テロリズムにたいする戦いでも同じ目標に向いております。例えばデジタル化、持続的なエネルギー供給、あるいは人口構造の変化といった諸問題に対処するためにも、数多くの協力関係があります。伝統的に密接な経済関係は、日本とEUとのあいだの自由貿易協定によってさらに前進することでしょう。良好な協力関係を象徴するのが、多岐にわたる相互の訪問や、例えばG7とG20あるいは国際連合の枠組みにおける二国間の会合です。

(P6下段に続く)



駐日ドイツ連邦共和国大使
イナ・レーペル

仙台日独協会 この1年

仙台日独協会が実施した事業の一部をご紹介いたします。

仙台日独協会事務局

2019年5月19日

第35回定期総会と講演

場所 メゾン・ド・リア・フィユ

2018年度の事業報告ならびに収支決算、2019年度の事業計画(案)および収支予算(案)について審議し、すべての議案について承認が得られました。総会後、東京ドイツ文化センター所長、ペーター・アンダーラス氏による講演会を行いました。「Zur Kulturarbeit des Goethe-Instituts」(ゲーテ・インスティテュートの活動)と題し、言語・文化・ドイツ語の学習方法などについて紹介していただきました。通訳は仙台日独協会文化センター所長のウイルフヘルム・菊江氏が担当。ドイツ語での質問もあり、熱心に聞き入る参加者の姿が印象的でした。



5月10日～7月10日

第7回ドイツ語研修生の募集

ドイツでの語学研修生の募集は7回目となりました。今年も、

書類審査と面接で選ばれた社会人1名を、研修生としてマンハイムに派遣しました。(研修者の報告はP.4をご覧ください)。

8月2日～8月7日

小・中学生の絵画展

「わたしのドイツ2018」

場所 東北工業大学一番町ロビー

恒例となった、ドイツ大使館が主催する絵画展には、毎年全国から千点を越える応募があります。2018年のテーマは「わたくわくドイツ」。宮城県の子供たちが描いた、わたくわくする力作114点を展示しました。



10月13日

里山を歩く会

山寺とその周辺の散策を予定していましたが、台風接近のため、中止となりました。

11月1日

講演会

場所 仙台国際ホテル

ドイツ大使館公使スザンネ・ヴェルター氏をお招きし、「ドイツ社会での女性の役割」と題して、ご講演いただきました(氏の講演については最終ページに掲載)。講演後は、末岡眞純駐仙台ドイツ連邦共和国名誉領事就任報告会と会食となり、公使を囲んで、参加者一同楽しいひとときを過ごしました。



11月24日

もみの木を飾る

場所 仙台日独協会文化センター

今年も、もみの木の飾り付けがメインでしたが、定番となったキャンドル作りや、リース作りに参加



12月21日

クリスマスパーティー

場所 仙台国際ホテル

昨年に引き続き「ワンワンカルテット」の皆さんの演奏に加え、今年も会員の遠藤眞幸さんによるハーモニカが加わり、とても素敵なコンサートになりました。歌やダンスも披露していただき、楽しい時間あっという間に過ぎてしまいました。

クリスマスパーティー

場所 仙台国際ホテル

昨年に引き続き「ワンワンカルテット」の皆さんの演奏に加え、今年も会員の遠藤眞幸さんによるハーモニカが加わり、とても素敵なコンサートになりました。歌やダンスも披露していただき、楽しい時間あっという間に過ぎてしまいました。



2020年2月15日

ドイツワインを楽しむ会

場所 仙台日独協会文化センター

暖冬だった2020年。春めいてきたような温かな2月の夕方、定着してきたワインの会は、ホームパーティーのような居心地の良さ。美味しいおつまみが並



び、ワインがすすみ、そして和気あいあいお話しは尽きません。

3月20日

ドイツ歌謡演奏会

場所 仙台日独協会文化センター

「Der Tunnel」(トンネル) 新型コロナウイルスのため、中止となりました。

このほか

9月13日～24日(仙台オクトーバーフェスト2019)(青葉区本町公園)

10月13日(仙台シンフォニーエッタ第43回演奏会)(東北大学川内萩ホール)を名義後援致しました。

ドイツに関する思い出



東北大学名誉教授
東北学理事長
松本 宣郎

松本 宣郎

私が大学を受験した1965年は、前年に(第一回)東京オリンピックで日本が浮き立ち、受験勉強もかなり阻害された(実は金メダルに夢中になってテレビに釘付けになった私たちの責任なのである)と受験生たちは感じていた。しかし首尾よく入学した私たちを待っていたのは1968年に開を免した大学紛争であった。私たちはかなりの激動の時代を経験することになるのである。

それはともかく当時の東京大学は受験生に、入学したら第一外国語に何を志望するかを志望せよ、と求めていた(かなり明瞭に記憶する)。予備知識など何もなく、合格することしか頭にないわけだから、ろくに考えもせず「フランス語」を選んだ。理由はフランスが好き、というよりも「ドイツ語は難しそうに感じた」からだけのことであった。

入学して実際にフランス語の授業は今の大学とは大違いで、週3コマもあった。先生も三人。これだけ丁寧にしてくれるのだから、第二外国語受験者の予備知識を大学は必要としていて受験生の調書に書かせたのだと納得できる。

実はドイツ語の第三外国語の授業にも挑戦してみた。山下肇教授の授業だった。しかし私の憶測通り、とっつきにくくてついていけない気がして数回で脱落してしまっただ。この体験以来、私のドイツ「語」に対するコンプレックスは根強くなった。本誌の「ニコニコ」に寄稿するまでも資格がないと言わざるを得ないのである。

もともと当人の多少の自負を言わせていたけれど、ド

イツ「語」との縁は終わったわけではなく、二年生になって半分専門学科のゼミで幾々私の恩師となる教授からなんとドイツ語の書物を読まされた。クルマンという学者の「マルコ福音書」の歴史的研究の冊子だった。幸い英訳もあったので、なんとか取り組んだ。そしてそれから古代ローマ史・初期キリスト教史の研究になって、否応なくドイツ語の書物を精かざるを得なくなった。それでも英仏伊・ラテンに比べて時間のかかることおびたたいのであるが。

ドイツ「語」は苦手でもドイツという国とか文化は好きである。文学分野ではトマス・マンが最も好きな作家である。クラシックでは特にワグナーが、というほどではないがパロクから現代までのドイツ作曲家を聴く。

ドイツへ行ったことは一度だけである。古代ローマ研究の最先端は20世紀半ばまでドイツが占めていたが、私たちの世代には英米の研究が盛んになり、私の大学では多くがロンドンやオックスフォードを留学先に選んだ。私は大学に職を得てからロンドン大学の古典学ライブラリーで在外研修を通じた。古代遺跡での発掘や見学には十数回出かけたが、古代地中海世界の遺跡は圧倒的にイタリヤ、ギリシア、トルコ、シリア、北アフリカが多く、訪問先もこれらの国に集中していた。

そんな中、1983年夏、シチリアの古代ローマ遺跡発掘に加わったとき、ローマ史の私の先生司副達氏から、イタリヤ半島南東部のレッチェという都市の大学で古代史の学会があるから来い、終わったらミュンヘンとローマを旅行しようという提案があり、喜んで出かけた。司副先生は世代的にドイツ学界第二で、学者も紹介してくれたが、ともかくミュンヘンへ行った。先生はさきに空路で行っており、私はローマから鉄道を利用した。ミュンヘンで過ごした数日が後にも先にも私のドイツ滞在唯一の期間なのである。

ミュンヘンについては紹介する必要もないだろうが、私としてはMunichの、大戦で破壊され、完全に復元された市庁舎の人形時計よりも、地下鉄で「駅はど

のUniversitätsplatzにあるGlyptothekなどの古代博物館に専ら興味があり、ギリシアの物も含めた古代の遺物、彫刻、モザイクなどに堪能した。オクトーバーフェストには間があったが、ピエネールは賑やかで、ビールというものはこんなに種類が多いのかと驚いた。そういううちにシチリアの発掘リーダーから帰ってこいと指示があり、また長距離列車でアルプスのトンネルを通過してローマに戻りシチリアへ帰ったのである。

かくしてドイツとのふれあいについて語るどころ甚だ心許ない次第である。ただ最後に、私が敬服してやまないドイツ大統領について記しておきたい。国家の政治トップはドイツの場合首相であり、EJも今や民族主義やポピュリズムの獲得に傾きつつある状況だが、長期政権のメルケル氏も苦境にあるが、私たちはなおその人柄に信頼を寄せている。他方でドイツ大統領が存在はしても政治的発言力が小さいことも、不思議なことながらよく知られている。その中で1984年から94年まで務めた大統領Richard von Weizsäckerこそが私の尊敬する人物である。心当たりの方も少なくないであろう。第二次大戦終結後40年の記念式典で彼は「荒野の40年」と題する演説を行った。ナチスドイツの残虐さを生み出した同じ民族として、このことを直視し、深く心に刻みつけるよう語り、「過去に目を閉ざす者は現在にも盲目となる」と喝破した。この演説は世界を感動させた。

自らの祖国の過ちをヒトラー個人の責任に帰するのでなく、民族としてあからさまにし、繰り返さないことを誓うと共に、現代世界において平和を守り弱者に手を差し伸べ続けようという提案であった。ここにドイツ人の真髄を見る。この大統領の遺産をドイツは守ってほしいと思う。

日本が犯した過去の過ちと国民が負わされた悲劇にあまりにも「盲目」な日本の政治トップと比べると、その格差の大きさを実感せざるを得ない。

1ヶ月間のドイツ語学研修を終えて

野口 真耶

まず今回、語学研修に参加させていただきまして、仙台日独協会の皆様にも感謝申し上げます。

11月25日から12月19日まで約4週間、私はゲーテ・インスティテュート・マンハイム校にてインテンシブ語学コース（B2、C2）に参加させていただきました。

ドイツ語を使って、もう一度自分自身と向き合いたい！と思い、今回語学研修プログラムに応募いたしました。

私は高校で、ロータリークラブの交換留学生としてスイスへ留学し、大学ではドイツ語を専攻、大学在学中にドイツへ留学しました。大学で、慣れ親しんだドイツ語ですが、社会人になってから、実生活でドイツ語を使う機会がなかったため、自然とドイツ語から遠ざかってしまいました。久しぶりのドイツ語で、どこまでできるのか不安がありました。今回の研修でドイツ語を学ぶ楽しさを再び感じることができました。



スイスの友人と



マンハイム大学

授業は午後13時半から18時までのクラスで、聞く、話す、書く、文法などが一通り組み込まれた盛り沢山の授業でした。他のクラスに比べて、毎日出される宿題も多かったのですが、授業後は宿題をし、終わらない場合は翌日のお昼頃までかかる事もしばしばありました。

私のいたクラスでは、生徒それぞれが発言する機会が多く、短時間で相手に自分の考えを明確に伝える良い経験となりました。事前にテーマが分かっている場合は、あらかじめ準備ができるのですが、その場でテーマが与えられる場合は、毎回苦戦しました。自分の語彙力の無さや、与えられたテーマに関する知識の乏しさを痛感しました。これから、ドイツ語を学んでいくうえで、語彙を増やすのはもちろんのこと、色々な物事に興味、関心を持つていこうと感じました。

授業以外では、様々な催しが企画されており、色々なプログラムに参加することができました。時



韓国と中国のクラスメイトと



隣人のイタリア人の友達と



クラスで行くクリスマスマーケット



ゲーテのクリスマスパーティー

期がクリスマス前だったという事もあり、クッキー作り、クラス全員で行くクリスマスマーケット、クリスマスパーティーに参加するなど、日本では味わえないクリスマスのお楽しみを感じ取る事もできました。

週末の過ごし方ですが、スイス留学時から親しくしているスイス人の友達とわざわざ、マンハイムまで私に会いに来てくれ、一緒にハイデルベルク観光をしました。また隣人のイタリア人の友達と、トリアやフライブルクへの観光、クリスマスマーケットに何度も訪れました。平日、週末とオンオフのメリハリのある、非常に充実した4週間でした。

また今回の研修での一番の宝物は、人との出会いです。国籍や年齢の異なる人と知り合うことができ、短い間でしたが、かけがえない友達を沢山作る事もできました。皆それぞれ、ドイツ語を学ぶ目的は違いますが、協力しあって学ぶ事ができた仲間。彼らの一生懸命な姿を見て、自分も

負けずに頑張ろうと思える、そんな素敵な人たちと出会い、学ぶ事ができ幸せでした。

今回の経験を活かし、語学を学ぶ事の重要性を改めて感じました。語学学習の最終的に行き着く先は、自分との闘いだと思っています。自分が頑張れば、頑張っただけ語学力もついてくる、自分が怠ければ習得までいくら時間がかかって、一瞬で忘れてしまおう。誰と競うわけでもなく、一生かけて学べるもの。自分とどこまで向き合えるのか。そこに語学を学ぶ楽しさがあるのだと私は考えます。たとえ時間はかかっても、一歩一歩自分のペースで、今後もドイツ語を学び、ブラッシュアップしていきたいと思っております。

この度は、このような貴重な機会をいただきました。本当にありがとうございました。少しでも日独協会に貢献できるよう、向上心を持ち、何事にも取り組みたいと思います。

余談！
ゲーテ・インスティテュートの寮に到着した初日からハブニングがありました。寮の鍵に苦戦したのですが、鍵は電子キーだったので、私は今までのタイプの鍵を使った事がなく、指示通り何度試しても開かず、部屋に入るこ



寮の電子キー



寮の部屋のドア



クラスメイトと一緒に

とができませんでした。何十分も部屋の前で格闘し、しまいには手を負傷し、散々な目に遭いました。最終的には、隣人に助けももらい開きましたが、自分で試すと開かないのです。色んな人に助け方を聞き、最後に教えてくれた人の開け方で何とか開くことができました。2日目には鍵の開け方を習得できました。

聞いているだけで笑い話のようにですが、ドイツの鍵を開けるのに苦労する日本人が多いとも聞きます。気になる方は、ぜひ来年の語学研修に応募して、試してみてくださいね！

このハブニングのお蔭で、隣人のイタリア人と仲良くなる事ができ、語学クラスは違ったのですが、色んな場所へ2人で出かけ、沢山の思い出ができました！ひよんなことからの出会い。ドアに感謝です！

ドイツの幼稚園を訪れて

後藤 みな

私は、大学で教鞭をとりながらドイツの幼児教育について研究しています。2019年10月、ドイツのベルリンとハンブルクの幼稚園を訪れました。ドイツへは今回で3度目で、メインの調査地であるベルリンへは初めての訪問となりました。ベルリン市内では、SバーンやUバーンで移動したのですが、その車両の中にトルコ系、中東、東南アジア系の方が何人も乗っていて、いろいろな言語が聞こえてきました。またハンブルクへはICEを利用し、食堂車で過ごしたのですが、そこで働いていた人たちはドイツ語ではない言語で仕事の話をしていました。休日は、ピアノの演奏会やバレエを観て楽しみましたが、隣りには中国語を話す方が座っていました。ベルリンの街で目を閉じると、こっぴど本当にドイツ?とってしまうくらい、ドイツ語以外のいろいろな言語が聞こえてきました。

外国人の多いドイツでは、ドイツ語の習得レベルの格差が心配されています。教育の専門家は、こうした格差の影響が一番に受けるのは幼児期の子どもであり、彼らへの公的な教育こそが、まずもって大事にされなければならないと考えています。またドイツ語をきちんと習得することで、入学後の勉強やその後の生活の質に良い作用を及ぼすと一般的に考えられているので、幼児教育の現場では、ドイツ語を話す、聞くということに重きをおいて教育を行っています。

私は、幼児教育の現場にはどんな子どもがいて、ドイツ語習得のためにどのような教育をしているのかについて関心がありました。今回は、ベルリンの私立幼稚園の例を紹介します。観察した4歳児クラスには、子どもが12人いました。幼稚園の子どもたちのバックグラウンドはバラバラで、ドイツ以外のヨーロッパ圏をルーツに持つ子どもや、アジア系の子どももいました。また、理由まではわかりませんでしたが、英語しか話せない親を持つ子どももいると先生から聞きました。このクラスには、ドイツ語を母語としない子どもが何人もいたのです。

この幼稚園では、子どもが自分の話を最後までする、友達の話に注意深く耳を傾ける、ということをお大切にしています。例えば、月曜日の朝の会に輪になって床に座り、週末の出来事を一人ひとり報告していく時間がありました。教科書に載っているドイツ語を勉強してきた私にとって、子どもたちの話を正確に聞き取るのは大変なことでした。おそらく、「土曜日に、ママと妹のアミーラと遊んだよ」、「パパとママとスーパーで買い物をしていたら、同じクラスのセバスチャンに会ったよ」という感じだったと思います。子どもと先生とのやりとりを聞いて、話の内容をつかみました。

4歳の子どものもので、大人のようにスラスラと話せるわけではありませんし、ドイツ語を母語としない子どももいるため、朝の会での報告は40分以上もかかり、ゆっくりと進んでいきました。この報告の中で、シーンと静かになる場面が何度もありました。子どもは一生懸命考えながら、言葉を選んでいるようでした。私がこのクラスの先生なら、「きっとこういうことかな?」と話を先読みして進めてしまうかもしれないな、と思いながら聞いていました。一方でドイツの先生は、間違っただけの単語を正すことはしていませんが、話が終わるまで口を挟まず聞き続け、質問やコメントは最後にしていました。ドイツ語をきちんと話すということ、子どもが自分の言葉で最後まで話すことを大切にしているのだと感じました。報告が終わった子どものうちの何人かは、友達の話の間で寝転がって遊んでいましたが、そういう子どもに対して、先生は優しく叱っていました。大きな目でギョロリと睨んでしっかりと注意していたので、とても迫力がありました。話している人の声に耳を傾けることが大事、と教えているようでした。



幼稚園で自己紹介した時の様子：2クラスが集まっている。先生が、ドイツと日本はこんなに違いと地球儀を使って説明している。子どもたちはわかったような、わからないような?という感じだった。

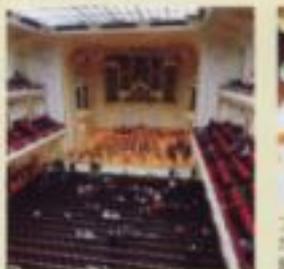
そんな様子を見ているうちに、子どもたちと自分とを重ね合わせるようになりました。私は週に一度、仙台日独協会でドイツ語を勉強し、特に課題と感じている「話す」と「聞く」を重点的に訓練しています。ウィルヘルム先生にウムラウトの発音やアクセントの位置、動詞の変化を直していただきながら身の上話をしますが、うまい具合に適当な単語が出てこず、考え込んでしまいます。やっとのことで話し終わると、先生から質問やコメントをいただくのですが、一つでもわからない単語があると、その後の内容がうまく耳に入ってこず、意識が遠のく感じがします。こういう体験を何度もしているので、幼稚園の朝の会で子どもが話す時の気持ちや、友達の話の間で寝込んでしまう理由がわかるような気がしました。

ドイツ語をきちんと話す、聞く練習をしているという意味において、私も子どもと同じ道を歩んでいて、同じような場所で行きつ戻りつしているのではないかと思います。私は、自主的にドイツ語を学んでいます。文法の勉強などで難しさを感じると、やれ仕事忙しいのだ、学生指導があるのだと理由をつけて、ドイツ語から離れようとしてしまいます。そういう後ろ向きな気持ちの時でも、先生から温かい励ましの言葉をいただいたり、同じクラスの方に良い刺激をもらいながら、ドイツ語の勉強を再開します。大人の私ですら揺れ動きながらドイツ語を勉強しているので、子どもの場合は自主的に学ぶことがもっと難しいのではないかと思います。そこで大事になるのは、周りのサポートです。幼児教育の現場では、子どもが自分の考えを最後まで話す、聞く、という機会を意図的、計画的に作り出して、ドイツ語をきちんと習得させようとしているのです。

どんなバックグラウンドを持つ子どもでも、一人もおいでさばりにしないという現場の雰囲気とともに、ドイツ語を学ぶ子どもの気持ちも感じ取れた調査となりました。次回の機会にはドイツ語をもっと話し、聞けるように、これからもドイツ語の練習をしていこうと思います。



ICEの食堂車と車窓からの景色：コーヒータンから望む景色は最高。北ドイツでは日本でもなじみの風景である新緑たる山並みは一切見られない。ひたすら草原が続き、遠くどこまでも見渡せた。



ハンブルクライスハンでのピアノの演奏会：ホール内の装飾はシンプルで、品が感じられた。27ユーロだった3階席でも素晴らしい音楽を聞いた。

令和の時代に変わる直前の4月末から、横浜港発着の北半球を西回りに20ヶ国、31寄港地を巡る98日間の地球一周クルーズに参加いたしました。日本の旅行会社のチャータークルーズなので乗客のほとんどは日本人約1,500人と、乗組員はフィリピン人他多国籍人と日本人スタッフを含む約700人が全員3ヶ月間“海上一つ屋根の下”での56,000kmに及ぶ航海でした。

スエズ運河から地中海に抜け、ヨーロッパ各地沿岸を北上、北大西洋を横断、アメリカ東海岸から南下してカリブ海へ、そしてパナマ運河を通過、南アメリカからアメリカ西海岸へ寄港して、アラスカ水河クルーズを最後に北太平洋を横断して横浜港帰港の地球一周航路です。

寄港地の紹介をするときがありませんが、例えば出航から30日目にたどり着いた訪問地のエーゲ海、ギリシャ、サントリーニ島では大型船の接岸桟橋が無いので、沖合に錨泊(アンカー)してテンドーボートで島へ上陸です。海上のテンドーボートから見るクルーズ船はたくましく、よくここまで来たなと感嘆深く見入ってしまいました。サントリーニ島は写真でよく見る様な紺碧の海に白壁の家並みで、感動的な景色でした。大型のクルーズ船が何隻もやってくると、狭い島は世界中の観光客だらけとなって大変にぎやかです。寄港地のはほとんどは帰船時間厳守の日帰りです。ここでは高台の街から港へ戻るケーブルカーの入口にはすごい行列、その長い待ち時間の行列の中で、休暇旅行中のにぎやかなドイツ人中年グループに出会い、久しぶりに独語の実戦練習でした。まずはドイツ人らしく、ズバリ旅行費用についての質問、さらに次々と質問漬けに!どんな船、設備、部屋で、食事の内容とかどんなアトラクションやショーがあるの?等々でした。Gute Reise!でお別れ、それぞれの船に戻って、それぞれ次の寄港地に向かっていきました。

ヨーロッパ各地には様々なクルーズ船旅のコースがあります。クルーズに関しては長い経験もあり、季節や料金、そして政治的事情にもよるコースも様々です。地中海、ケルト海方面から北欧、バルト海、ロシア方面へ、そしてライン、ドナウ川等のリバークルーズで、のんびりと各地を巡るコースも人気です。イタリア船が多いのですが、最近では10万トンクラスと大型化し船内のアトラクションも多様化して、乗客は一度に5,000人もいて、驚きます。家族連れから老若男女まで、そして国際交流の旅も楽しみの1、2週間の気楽な船旅が多いようです。今回のように長期間の世界一周、しかも乗客の平均年齢が70歳以上の日本人だけのクルーズは、旅好きの健康で余裕のある年配者の特権でしょう。

日本(中国や台湾などの諸国も含めて)では、クルーズ船での旅行はまだまだ少ないように思われます。“豪華クルーズ船旅”というイメージが強いのですが、内容は様々です。今後どのように受け入れられていくのか関心があるところです。世界各地で異常気象の続く中、ヨーロッパでの高温気象やアラスカでも気温が30℃では水河はあつという間に溶けてしまいそうです。未知の世界もまだまだたくさんあり、この平和な令和の時期に、次にチャンスがあったらドイツ語いっばいドイツ人たくさんクルーズも体験をしたいと思います。



スエズ運河



パナマ運河



アラスカ水河



サントリーニ島

ご挨拶

2020年もドイツから数多くの訪問客を迎えて忙しい一年になるはずですが、とりわけ私はことしの夏のオリンピック・パラリンピック競技を楽しみにしております。ドイツの選手団とそのスタッフや家族だけではなく、多くのドイツのスポーツファンが日本を訪れ、競技以外にも日本のおもてなしを体験することができるよう。彼らが多くの人を誇らしい思い出を持ち帰り、人とのつながりを築き、友情を結ぶことを期待する次第です。数多くの日本の市町村でさかんにホストタウン活動がおこなわれています。

さらに、私も今年は日本をもっと旅行したいと望んでおります。その際にはぜひ仙台を訪れたいと思っておりますが、じつは2015年3月に私は国連防災世界会議でのドイツ代表団の一員として、仙台では1週間を過ごしました。何千人もの会議参加者を前が親しく受け入れて、私たちの言葉をしてくださった数多くのボランティアの活動は、当時、私に強い感銘を与えました。仙台日独協会はドイツ代表団全員を歓迎セレブションへ迎えてくださり、私たちはその場で、会議とは関係がない日本人やドイツ人とも知己を得ることができました。それはきわめて有益だったと思います。そのようなわけで、今にしてみれば、仙台日独協会は私が知り合った最初の日独協会だということができそうです。

東京への着任以来、私は仙台以外の日独協会とも接し、全国の協会の多様な活動からつねづね感銘を受けています。さまざまなイベント、交際プログラム、あるいは「GUTENTAG」のような刊行物によって、全国の日独協会はより良い相互理解に貢献し、私たちの国のあいだの関係を活気づけています。それゆえこの機会を利用して、仙台日独協会とその活動、そして本誌「GUTENTAG」の読者の皆様と、皆様が喜ばれる関心にお礼を申し上げる所存です。

フランクフルト子育て日記

小野 いずみ



フランクフルトで生まれた赤ちゃんは、全員このサッカーチームのユニフォームを授けられたベビー服をもらえます。

まずは入院時の病院をご紹介します。

こちらは授乳室です。搾乳機が見えていますが、これは退院後は薬局で無料レンタルできます。私は使いませんが、レンタルした友人によれば事前に搾乳して冷凍もできるのでとても便利だそうです。

退院後は Hebamme(ヘバメ=助産師) が15回まで無料で自宅訪問してくれます。入院期間が通常分娩の場合は3日で退院となるため、新米ママ・パパは(ドイツ語だと「焼きたてママ・パパ」ですね。) 病院や両親学級でも「ヘバメは見つかってる?」と必ず聞かれました。日本では産院で教えてもらう沐浴や授乳、産褥期の過ごし方などはドイツではヘバメから教えてもらいます。私たちのヘバメは近所に住むベテランの50代ドイツ人女性で、彼女が2日に1度来てくれたおかげで本当に助かりました。

ドイツでは産湯にはつからず、へその緒が自然に乾いて取れるまでは沐浴させません。生まれてすぐ、赤ちゃんのへその緒はクリップで止めます。ちなみに、お風呂はへその緒が乾くまでなので生後3週間ほど入れません。その代わりにアーモンドオイルをたっぷり肌に塗り、汚れを浮かせて優しく拭き取ります。

オーガニック大国のドイツは、離乳食ももちろんオーガニック=Bioです。こちらはドラッグストアの離乳食コーナーですが、Bioのベビーフードがずらり。お値段もかなり抑えられています。試しに食べてみたところ、野菜の味が濃くて美味しい! にんじんやかぼちゃのペーストなど日本と同じようなものもあれば、ミルク米粥や4ヶ月から食べられる牛肉ペースト、スパゲティ・ポロネーゼのペーストなど…。離乳食は手作りもしますが、このように手軽な瓶詰めを使うお母さんたちも多いそうです。豪華なプレミアム離乳食も、ローズマリージャがいもにんじん、仔牛のペースト。大人が味見しても、なかなか美味しかったです。



ドラッグストアにあるオムツ替え台。

おむつやおしりふきに無料で使えて、とっても便利! おむつも Bio!

粉ミルクや液体ミルク。

おみやげにする外国人観光客が多いため、買い占め防止のために

「1人〇個まで」の貼り紙がある店舗もあります。

お粥のコーナー。

お湯でとけば、すぐに食べられる手軽な離乳食です。ドイツでは腹持ちの良いミルク粥を寝る前の赤ちゃんに食べさせるとか。

ドラッグストアの授乳スペース。

デパートなどは個室ですが、こちらは椅子と衝立の簡易的なスペースです。授乳時は胸元を隠さないお母さんたちも多いので、気にしなければこれで充分なのかもしれません。私も使っていますが、大きな椅子でなかなか座り心地が良く、ゆっくり授乳できます。

また、子連れに優しいのもドイツの魅力! …と、私たちだけでなく友人たちも皆同じように思っているそうです。バスや地下鉄、電車などは充分なベビーカーの場所が車両ごとにあり、広々とベビーカーを停めて乗車できます。



赤ちゃんはどこでも大人気!

そして、ベビーカーを押して出かけると必ず「何ヶ月?」「かわいいね!」など声をかけられ、子どもに好意的。困っていても「手伝いましょうか?」と申し出てもらえることも多く、出産して半年、外出時に困ったことは一度もありません。以前バスで娘が泣き出して困っていたら、乗っていた高校生たちが広い席を譲ってくれて、「赤ちゃんかわいいですね!」「赤ちゃんの顔を見てもいいですか?」など、声をかけてくれて本当に有り難かった思い出があります。



コリアフィルハーモニー



表紙の写真説明

エルブフィルハーモニー ハンブルク (Elbphilharmonie Hamburg 愛称エルフィー=Elphi)はドイツのハンブルク港に2017年1月にオープンしたコンサートホールです。Elb(エルブ)はこの港に流れるエルベ川のことで、このホールは北ドイツ放送交響楽団(NDR Radiophilharmonie)の新しい拠拠地となっています。何百年も続く商業町ハンブルクのシンボルともいわれてきた運河沿いの古い倉庫群の上部に、コンサートホールを新設するという大胆な計画は、10年近くも市長と納税者である市民との間で、話し合われた結果、内部も外観もユニークなアートに満ちたシンボルマークが完成しました。無料で建物の上部に登り街全体の美しい景観を一日中楽しめるようです。

ドイツ社会での女性の役割

在日ドイツ大使館公使 経済部長 スザンナ・ヴェルター



日本では女性の役割について、いまだに伝統的考え方が残っていると、耳に致しました。しかし、私は何かが社会や仕事へ参加推進を求めると、女性たちと討論する機会もありました。安倍首相も女性を職場へ勧誘することが、アベノミクスの最も重要な要素の一つと位置付け、そのために多くの法案と行動計画が首相主導のもと示されました。

メルケル首相のキリスト教民主同盟(CDU)と協力関係にある保守的政党バイエルン州の政権政党キリスト教社会同盟(CSU)において、候補者名簿への掲載や幹部の選出に女性比率を導入すべきかどうか、最近激しい論争がありました。政党の近代化を図りたいバイエルン州の首相は自らそれを提案したのですが、男性が大多数の保守派や伝統主義のグループの反対にあって挫折しました。この出来事はドイツのメディアで大いに論じられ、世間の関心を集めました。ドイツのその他の政党では女性一名と男性一名からなるいわゆる「ダブルトップ」を指導部に据えること、役職や候補者名簿は男女比

を考えて割り振ることが、最近では当然のこととなっています。全てのポストに男女各一名の候補者が決められているドイツ社会民主党(SPD)に追随したのかもしれない。ここ数年、ドイツ国内では、組織の上層部で働く女性も男性と同等に扱われ、多くの官庁、書局、企業では指導者レベルの女性の統計を公表しています。最も多くの女性が指導者レベルで登用されているのが、ドイツ外務省です。ロート政務次官は、年間に、「講演者やパネリストには女性を少なくとも一名含める事、そうでない行事には、今後は、私は参加しない」と表明し、これを外務省の主導するすべての行事の条件としました。

1970年代まで、ドイツでは、公的に妻は夫の許可なく働くことができなかったり、自分の口座が持てなかったり、離婚裁判も同様で、子供の扶養権も男性が有利でした。1980年、90年代にこの様な規定は廃止されたのですが、家庭と職業を両立させることは、女性にとっても難しかったのです。しかし、ここ数年、15年は社会の高齢化に伴い、高度な専門教育を受けた女性の労働力が求められています。そこでは女性のための労働市場を活性化し、家庭と仕事を両立出来るよう

に、行政と社会が新しい規定と経済的助成措置を作り出し始めました。企業や官庁は子供を持つ男女に法律に定めた請求権やパートタイムの職形を提供しています。国家から支払われる2年間の育児休暇(Elternzeit)もその一つです。休暇後もそれまでの仕事に復帰できる保証があり、子供の成長に合わせて、パートタイムからフルタイムに変更することも出来るのです。この期間、多くの企業が独自の子供手当を支給しています。これからは、子供を持つさらに多くの女性が休暇後、フルタイムで働くよう企業も国も努力して行くでしょう。

ドイツはここ15年のうちに、上がりすぎた年金水準を下げなければならなくなりました。高齢人口は増え続け、この高齢者に対して、保険料を支払える人口が減っているのです。さらに、夫婦が昔のように、どちらか片方だけの年金では暮らしていけない時代になりました。例えば、パートで働いていた妻は夫の死後、国の補助に頼らざるを得ない事情が増えていきます。

女性は職業に従事しながらも、子供を育て、良い母親でいたいと思っっているのです。メルケル首相はドイツでは模範的な女性像と言われています。2005年の選挙で、メルケルはライバルのシュレーダーとのテレビ討論会で彼女の討論能力を見事に発揮し、選挙に勝利したのです。しかも、その後何年もの間、政策上の難しい課題も乗り切り、政治家としての能力を証明したのです。

現在、ドイツはE.U.委員会の新しい委員長にフォンデアライエン女史を立てています。彼女は政治家としても素晴らしい経歴を持っていますが、7人の子供を育て上げているのです。北ドイツのメクレンブルク州の政治家ボンメルン州政府首相シュゲエツト女史やかつての家族相のキリストライナ・シュレーダー女史も在任中に子供を授かり、夫と共に育児休暇を要求したのです。このような素晴らしい実例はドイツ国民に強烈な影響を与え、若い女性達も仕事と家庭を両立させて、キャリアを積んでいきたいと考えられるようになりました。



これからも日本とドイツの間の多くの分野でお互いの経験と知識を交換でき、話し合いを進める場ができればと願っています。

仙台日独協会 NEWS



新しい在仙台ドイツ連邦共和国名誉領事に、末岡眞純氏が決まりました。
事務所は
〒980-0013
仙台市青葉区花京院 2-1-65
いちご花京院ビル7階
Tel.022-713-7267

E-mail: m.sueoka@outlook.jp
開館時間 第2,第3木、金 10:00 - 12:00 / 13:30 - 16:00
日本およびドイツの祝日は休み

仙台日独協会文化センター
http://www.doitsugo.jp
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-3-10 日属ビル3F
TEL/FAX 022-262-7430 (事務時間:月~金15時~19時)